

# [第 117 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和3年 7月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和3年 8月 8日(日) 15時～17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」  
テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 26 章 p.346～  
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

7月4日(日)午後、安曇川公民館で第116回人間学塾を開きました。コロナ対策を十分に行いました。

まず、「ハーバード白熱教室」で知られるマイケル・サンデル教授が新書『能力主義の横暴』を出された紹介しました。成功した人は、自分の成功は自分の功績だと考え、物質的な恩恵は自分の手柄だと考える。自分が幸運に恵まれたという

ことを忘れてしまい、幸運でない人を見下すようになる。それを教授は批判的にとらえ、皆に共に考えてほしいと提言されています。藤樹先生も「謙(謙虚)」な心が大切だと教えられています。

今回は『中庸解』第26章です。大意について次の様に説明しました。「至誠をもって事に当たり、怠ることなく、あきらめずに行えば、長く勤めることが出来る。長く勤めれば必ず目に見えるしが顕れる。(中略)至誠がうちに充満すれば、五事(貌・言・視・聴・思)の徳の潤いがなんとなく外面に顕れ、天地を動かし、ことさらに工作しなくても相手に感化がおこり、功業が行われる」。

今回は参考として、西郷隆盛、佐藤一斎と中江藤樹の資料を使いました。勝海舟は「西郷は大いなる至誠の人であり、江戸城の無血開城がたちまちのうちに実現したのも、西郷の至誠のためだった」と語っている。その西郷の座右の書が『言志四録』。これは、幕末の儒官、佐藤一斎が著したもので、「人を相手にせず、天を相手にせよ」等が述べられている。その佐藤一斎は、朱子学を奉ずる立場にあったが、陽明学に強い関心を抱き50歳の時、「藤樹書院」「藤樹神社」に参詣している。藤樹の至誠の教えが江戸無血開城につながり、多くの人の命を救ったとも考えられる。

私たちが誠実さが内から外に自然に表れるように日々努力することが大切です。

フリートークで、参加者からは「成功はいろいろな偶然によって得られたものであることを謙虚に受け止めることが重要だと思った」、「至誠が大宇宙に充満し私たちが生かされているという教えは、ヨガの元であるインド哲学と合う」、等の意見、感想をいただきました。

私からは、佐藤一斎の言葉「少にして学べば則ち壯にして為すことあり、壯にして学べば則ち老いて衰えず、老いて学べば則ち死して朽ちず」は、今まさに私たちが学び、行っていることだと思うと述べました。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。